

# 令和6年度使用教科用図書採択検討委員会<特別支援教育専門部会>議事録

日 時 令和5年(2023年)7月14日(金)15時30分~

場 所 横須賀市教育研究所 会議室

【15:30開会】

1 開 会

2 挨拶 横須賀市教育委員会

3 挨拶 採択検討委員会

特別支援教育専門部会 部会長

4 会議の進行について

5 調査報告

**進行：部会長**

(1) 養護学校 小学部・中学部

〔報告〕

小学部・中学部

## **調査部員**

本校は現在小学部25名、中学部16名、41名の肢体不自由を中心とした障害のある児童生徒が通学している。ほとんどの児童生徒が車いす等を利用して生活しているが、個々の課題は様々であり、選ぶ本も異なっている。今年度の傾向としては、触覚や聴覚、視覚など五感を使って楽しめるものが多く選ばれている。例えば実際にパズルのピースを動かしながら楽しむもの、音声で読み上げてくれるもの、動いたり飛び出したりするしかけがあるもの等が選ばれている。文字や音声言語のみでイメージをすることが難しい児童生徒にとって、五感を使って学ぶことが必要であり、児童生徒の実態に寄り添ったものを選んでいく。

(2) ろう学校 小学部・中学部・高等部

〔報告〕

小学部・中学部

## **調査部員**

本校の児童生徒は少人数だが、一人ひとりの子どもの実態は異なるため、学部、教科担当、担任で話し合い、各教科書を選んでいく。普段から、担任を中心に教科担当者で「児童生徒にどのような姿になってほしいのか、そのためにはどのような学習が必要なのか」といった意見交換を行うことで、児童生徒の成長、学習状況を学部全体で共有している。次年度の教科用図書については、担任と教科担当者を中心に、教科書展示会、過去に選択された教科書、インターネット等を使用して

選択したり、教科用図書が児童生徒に合うか、どのように授業で活用していくのか、話し合いを重ねて選択したりした。また、今年度の担任だけではなく、昨年度の担任及び教科担当者の意見も参考にしながら選択をしている。例えば、次年度小学部に入学予定の児童については、小学部だけではなく、幼稚部の教員の意見も参考にし、実態を確認しながら選択した。このように、次年度の教科用図書も、一人ひとりの実態に合った教科用図書を選択できたと考えている。

### (3) 特別支援学級

〔報告〕

小学校

#### 調査部員

文部科学省著作本については、国語が3冊、算数が4冊、音楽が1冊、附則第9条本については、国語が8冊、算数が9冊、書写、社会、理科、音楽、図画工作、道徳がそれぞれ1冊である。附則第9条本は、「ゆっくり学ぶ子のための」という同成社のシリーズの他、こばと出版の「ジャンプアップ」や「ステップアップ」シリーズ、日本教育研究の「ひとりだちするための算数」等への採択希望があった。また、採択希望があった本は、児童の発達段階に合わせて、スモールステップで言葉・文字・数・数字の習得がなされるように工夫がされている。また、文字も大きく、挿絵が多く、色彩豊かなものであり、生活に即した内容で構成されているため、興味を持って、楽しく学べる内容になっていた。

中学校

#### 調査部員

国語、数学に関しては昨年に引き続き著作本の採択希望が多かった。主に知的障害部門の支援学校で使用されることを念頭に作成されている教科書のため、挿絵も多く生徒にとって学習のイメージが付きやすく、学年別ではなく段階に応じた内容のため、生徒の障害の状態に合わせて選びやすいことが、著作本が幅広く採択が希望されている理由ではないかと考える。附則第9条本においては国語、社会、数学、理科、英語、家庭での採択希望が多くあった。特に「くらしに役立つ」シリーズは多くの教科で採択希望があり、自立と社会参加を目指す特別支援学級においては、生活に落とし込みやすい学習内容として選択されているものと考え。また、「ゆっくり学ぶ子のための」シリーズもイラストなど視覚的な支援が充実していることから、複数の中学校で採択希望が出されているのではないかと考える。特別支援学級の生徒の中学卒業後の進路が多様化している。そのような状況の中、附則第9条本の採択希望は実生活との関わりを持たせたものや生徒一人ひとりの学習・生活実態に合わせたものが選ばれていると考える。

<採択上の意見交換>

### (1) 養護学校(小学部・中学部)

#### 検討委員

小学部の社会科で選ばれている「動く写真で見る野生動物の世界しかけえほんサファリ」があるが、通常の本と大分異なっているようだ。総評の中で「ページをめくると、その動物たちが生きているように動く」とあるが、どのような仕組みになっているのか、またそれを見たときの子ども

の様子が分かれば教えてほしい。

#### 調査委員

この本は、開くと写真が上下に記載されており、本を開いたり、閉じたりすると、動物が非常に細かい動きをする。本校は実際に動物を見る経験があまり多くない児童もいる中、この本を見た児童は、目をキラキラとさせて、驚いた様子や、少し怖がる様子が見られた。動いて様子が見える本は、本校の児童生徒にとっては効果的な教科書であると考えている。

#### 検討委員

以前には、希望は出したが絶版になってしまったということがある、という話をきいたが、今年についてはいかがか。調べてみたら絶版だったということがあったのか。

#### 調査委員

今年度については、調べている段階では、ほとんどそのようなことはなかった。

#### (2) ろう学校(小学部・中学部・高等部)

#### 検討委員

ろう学校の高等部について、今回廃版なったものに変えて「新編古典B」という本を選んでいるが、総合高校も同じものを使用している。総合高校と連携等があったのか。

#### 調査委員

特に連携はない。

#### 検討委員

理由を見ると、「高等部の生徒に適したもの」と書いてあるが、偶然総合高校と同じものになったのか。

#### 調査委員

はい、同じものにするということで選んではいない。

#### (3) 特別支援学級(小学校・中学校)

#### 検討委員

一般図書で「ゆっくり学ぶ子のためのシリーズ」が多いとのことだが、先程報告にもあったと思うが、改めてどのような点で選ばれているのか、伺いたい。

#### 調査委員

小学校の場合をお伝えする。4～5冊のシリーズだが、初めは文字の一致させる内容で、かわいいイラストと大きな字が教科書を開くと出てくる。ひらがなの習得、ことばと絵の一致等、同じ1ページの中で、様々な学習ができる。幅広く使い方を工夫することができる。また、それから段階が進むと、文字数が増え、物語文が出てくるようになる。作文の学習では、短い文と動きを表すイラストがあり、まずは読む教材として使い、それを書く教材に発展させるといったように、様々な段階を児童の発達に応じて継続的に使っていくことができる。このような点が大きな利点だと考えている。

#### 委員長

中学校はいかがか。

#### 調査委員

イラストや図等が分かりやすく載っていることが、選ばれる大きな理由である。どうしても言葉が頭の中のイメージとして浮かべて考えることが、なかなか難しい生徒もいるので、同じページの中に文字とイラストが載っていることは、学習しやすいのであろうと考えている。

#### 検討委員

先程、幅広い使い方という点で、個々に応じた指導に活かせる教材なのだとわかった。

#### 調査委員

小学校の音楽で星2（おんがく ）の採択希望があるが、実際にどのように活用されているのか、分かれば教えてほしい。

#### 事務局：

事務局の方からお伝えする。昨年度は音楽の著作本の希望はなかった。今年度新たに希望があった。児童の様子を見とりをする中で、「児童の実態に合わせて」という視点から検討されて、今回新たに採択希望があったと捉えている。

## 6 全体を通しての意見や感想

#### 検討委員

これだけの量を一生懸命読ませていただいた。忙しい中でこれだけのことをやられてるのが大変だなというのが、第一印象である。特に、それぞれの校種や学級でどういう繋がりがあるかという点に注目した。一番多かったのは、算数の星本の2（さんすう ）で、ろう学校、養護学校、小中学校それぞれ希望が出ている。その点で感動したことがある。個に応じたということは昔から言われているが、教科書の選定はその具現化が1番出るところである。それが、調査評価表の文章から読み取れたのがすごいなと思った。先生方が、普段子どもたちといかに接しているかがわかった。例えば、ろうの選定理由では「児童の実態に合っている」という言葉が使われている。養護学校では「子どもにとって見やすくわかりやすい」、特別支援学級では児童の実態に合っていること理由が様々に書かれている。これを読むと使う場面や使う子が想像できる。中学校の特別支援学級では、先程進路の多様性についての話があったが、レベルアップを目指す生徒に適した内容であることが分かる。この1つの本（さんすう ）を取ってみても、普段から個々を大切にしていることが、横須賀では行われているんだなということが分かった。

一番読んでいて感動したのが、養護学校の中学部の道徳、金の星社の本の選定理由で、「『思いやりのある子に育てたい』という親の願いに応える絵本である」といった理由が書かれていた。本当に一人一人の子を大切にしていることが分かった。

#### 検討委員

それぞれが、子どものことを考えて選ばれた本であることがわかった。また、保護者としては、このように教科書が選ばれて子どもの手元に来ているのだということが分かり、いい機会であった。

#### 検討委員

ろう学校の様子を見ていると聴覚障害を持った児童生徒の中でも、障害の程度がかなり異なる。きこえのよい子もいれば、きこえの状況が発話になって表れている子もいる。特に国語、言語力には個々の差があると感じるので、教材と教材をどのように使っていくかということでは先生たちの技量の向上は今後も望まれるのではないかと感じる。そういった意味では、「色々な使い方が

できるような教科書や教材とは」、という視点も必要になってくるのではないかなと感じた。

#### 検討委員

星本（本）だけではなく、一般図書も本当に広い範囲から選ばれていた。たくさんあるが、一人一人を思い描きながら選んでいくには、これだけのたくさんの検討が必要なんだなと感じた。

7 答申内容の原案決定

8 閉 会

【16：05 閉会】

